

行書の特徴

楷書と行書の違い

[楷書]	[行書]	[楷書]	[行書]
実	実	明	明
画が直線的	画が曲線的	角張っている。	丸みがある。
「払い」が「止め」になることがある。		一点一画がはっきりしている。	画を連続させて書くことがある。

行書は、速く書くのに適した書体。楷書との違いを理解して書き方を身につける。

翼沙書道教室「習字（書写）を学ぶ・教えるための講座」 CALLIGRAPHER TSUBASA KIMURA ©

楷書と行書の違い

[楷書] 直線的で角張っている・一点一画がはっきりしている

笑	横	言	理
変	連	省	筆
点画の形や長さ、方向などが変わる	点画と点画がつながる（筆脈）	書き方によって点画が省略される	書き方によって筆順が変わる

[行書] 曲線的でやわらかい・一点一画につながりがある

行書には、楷書に近いものから、より速く書くために変化したものまで、様々な書き方がある。

翼沙書道教室「習字（書写）を学ぶ・教えるための講座」 CALLIGRAPHER TSUBASA KIMURA ©

■ 行書を書くときの基本ポイント

- ・ 行書の表現は広いが、実用書では崩しすぎないのが基本。
- ・ 楷書の点画を「ただ繋げる」のではなく、必要な線（実線）と繋がり線（虚線）を分ける。
- ・ 虚線は省いても文字が成立しますが、実線を省くと文字が崩れます。
- ・ 行書は点画の“筆順”に沿って流れを作ると書きやすい。
- ・ 「筆順」は学校で習う書き順とは異なり、筆の流れ（上→下・左→右）に逆らわなければ正しい方向となる。（例：上の一画目は、縦→横でも横→縦でも可）
- ・ 「点画の流れに合わせて、リズムよく書く」を意識すると自然な行書になる。

* 行書の説明図は翼沙書道教室「習字講座」より

《コラム：楷書と行書、どちらが先？》

一般には「楷書が崩れて行書になった」と説明されますが、書の歴史を見ると、実はその逆の流れもあります。

中国の後漢時代（25-220年）から、隷書の速書きとして、楷書が成立するよりも先に書かれていました。

その後、官文書などでの使用のために、“形を整えて書く”必要が生じ、行書を基礎として楷書が整えられました。

つまり、行書の成立には、「楷書 → 行書（崩し）」・「行書 → 楷書（整え）」のふたつの流れがあります。